

直接話そう!! 直接交流しよう!! 姉妹提携

YEG パートII

〈高岡YEG〉

岐阜県高岡市商工会議所青年部との交流は、昭和55年8月に開市より20名が視察研修を目的として来高されたことから始まっている。

その後、昭和57年10月の高岡での第2回全国大会において田交を始め、引き続き長靴交換や野球、ゴルフ等のスポーツ交流を行ってきた。

昭和59年9月開市において、第2回東海経済ブロック産業研究会が開催されたのだが、それを機に、その前日に高岡青年部が姉妹青年部の締結をし、調印を行った。

その機嫌は、「積極的に一体的な行動を起こすことによって、各々が地域経済の健全な発展を図る」という青年経営者の使命をはたすことができるといふ意であった。

この日(昭和59年9月17日)、高岡部会から上田博会長をはじめ約40名、開市部会から約40名が出発し、開市商工会議所3階ホールにおいて調印式が行われたのだが、開市部会が姉妹部会として選定に至ったのは、岐阜県高岡市が「友好」のまちとして有名で「伝統産業を有する」「観光地域に類似点がある」「お互いに交流が深い」という特徴があったからである。

その後、開市青年部と高岡青年部は今日まで記念事業やイベントその他、委員会単位での輪流会等の交流を継続している。

昭和60年、開市部会は10周年を迎え、その記念日には開市長の祝辞と共に、当時の会長第2代会長高田一二三氏の10周年に対する祝辞が見られる。

平成6年には、姉妹青年部として10周年を迎え、お互いの青年部の異なる特徴を称え、高岡には「花水木」をそれぞれ記念樹としている。

今後は、両市の経済交流を活動に据え地域経済の発展に貢献するために、具体的な即効性のある輪流会等も計画していきたい。

〈関YEG〉

昭和54年、関YEGは、開市商工会議所会頭のお力添えで誕生をあげました。当初私たちは、商工会議所青年部というものがよく解らなかった為、青年部の先輩であった高岡YEGをお手本として、組織や機能的な基礎を作るよう、昭和56年より交流をお願ひして現在の状況を作ってきたのです。

昭和59年、当時の高岡・関YEGの会長の発案で姉妹提携を結ぶ事となり、9月17日、関で調印式を行いました。以来互いの周年記念に出発するのはもとより、視察旅行・スポーツ交流・ゴルフ等でも友情を深めてまいりました。平成6年には、姉妹提携10周年を記念して姉妹を高岡・開市市で行ないました。平成8年度関YEG主催で行なわれました東海ブロック大会にも、高岡YEGから参加頂き、良い関係を築いています。

本年度、関YEGは創立20周年を迎えます。やっと大人の仲間入りといったところで、今までの足跡をたどりたいという思いを大切にしたいと、一日も早く大人の高岡YEGに肩を並べられるよう、レベルアップに努めたいと思っています。

「本年度関YEGの事業」

本年度関YEGは、会員のレベルアップの為の充実した例会をめぐっています。5月には、大ベストセラー「豚の革命」の香山茂雄氏を講師に迎え例会を開催し、開市部会へのYEGのPRと、還元を目的に、オープン例会として一般の方へも無料公開とし、1,000名以上の参加を得る事ができました。

「関の特産品」

関と言えば、名刀「関の長六」に代表される、ナイフ・包丁等の刃物が有名です。その中でも、今話題は、リサイクルハサミです。以前、両市連に出向して見ました長谷川義信君の会社で作っているもので、ハンドボールや、切りにくい中乳パックの裏が簡単に切れたりする便利なハサミです。



- ♥姉妹YEG
- 高岡(富山)—— 関(岐阜)
 - 氷見(富山)—— 大町(長野)
 - 魚津(富山)—— 横須賀(神奈川)
 - 黒部(富山)—— 浜田(島根)
 - 水戸(茨城)—— 敦賀(福井)
 - 洲本(兵庫)—— 大田(島根)
 - 江戸川(東京)—— 鶴岡(山形)
 - 長門(山口)—— 米子(鳥取)
 - 別府(大分)—— 指宿(鹿児島)
 - 大村(長崎)—— 沖縄(沖縄)
 - 米沢(山形)—— 高鍋(宮崎)



〈高鍋YEG〉

平成9年12月3日、姉妹の真ん中が盛えぬ昭和22年に高鍋商工会議所が誕生し、38年の歳月が流れた記念の日、創立50周年記念式典のメイン行事として、約230名の出席者に見守られ、米沢YEGと高鍋YEGの21世紀を担う青年たちが、友好姉妹青年部提携調印式を執り行ないました。調印式には、遠く米沢から佐川常務理事、青年部副会長以下4名がはるばる駆け付けてくださり、両市青年部にも盛大に行なうことができました。

調印書「新たな青年経営者としての友好関係を構築することにより、互いに切磋琢磨し、商工会議所青年部

の使命である次世代への先導者としての責任を自覚し、地域の経済的発展の支えとなり、新しい文化的創造をもつて豊かに住みよい郷土づくりに貢献することを誓約する」にサインをし、両YEG会長が調印書を交換すと、記念式典会場に拍手が巻き起こり、両YEGの連携に対する期待の高さを痛感しました。

米沢市と高鍋町の友好の歴史は古く、今から240年前、右大臣藤原公が米沢に移られて以来続いておられますが、その240年のときを超えた先人たちが築いてこられた友好の歴史を大切に、今後、地域の商工業の発展を目指して、皆様のご期待に添うべく連携活動を行なっていくことを決意した次第です。

〈氷見YEG〉

①姉妹提携時期
平成9年8月30日(土)
②思いきさつと目的
姉妹YEGのある長野県大町市と氷見市とは昭和47年11月より姉妹提携を結び、当地は交流が盛んであったものの、ここ数年は老干の行き来があるだけであった。

そこで、姉妹都市としての意義を確認するべく、氷見・大町のYEGが両市のパイプ役を担うため姉妹YEGの発足を結んだ。そして、その先に両市の都市氷見と山の都市大町という異都市との交流を図ることで、両市交流及び文化等の交流・伝達を願っている。

③メソッド
イベント・まつりそして、青年部事業において気軽に相互参加をすることで、両市のPRが期待でき、また参加費をすることで、イベント等を盛り上げることができる。

また、現在では青年部という垣根を超え、個人・家族としての交流を行うことができるようになっていく。

④姉妹事業の現状
イベント・まつり等はもろもろ簡易な輪流会等にも相互に参加しており、また今年度は合同家族例会も予定している。

⑤将来展望
交通事情、情報化等の発達を見越した活動をするため、現在の交流をより一層発展させ、青年部の活性化はもちろん、自企業、そして地域の活性化を目指して邁進して行きたい。

⑥新規提携の計画
現在姉妹提携の予定はありませんが、岐阜県各郡市のYEGと交流を図っています。(東海北陸自動車道の開通を見越して)

⑦事業・特産品、ミスコンの紹介等
●事業→氷見南工感謝祭、ひみまつり、ひみ夜まつり、まるまげまつり、ひみキトキト元氣村、ひみキトキト大大学等
●特産品→氷見イワシ、寒ブリ等の魚類、塩干物、氷見牛、氷見うどん、銘酒、大数餅・福起こし
●ミスコン→青年会議所中心となり氷見祭り(8月)に決定している。ミスは3名決定し3名とも「ミスキトキト」と呼ばれる。☆幹事のミスは、上の3名です。



〈大町YEG〉

①姉妹提携時期 平成6年8月30日
②思いきさつと目的
長野県大町市と富山県氷見市は昭和47年11月より姉妹都市として調印したが、行政間の交流は若干あるものの民間レベルでの交流はほとんどなかった。

そこで、姉妹都市としての意義を確認するべく、大町・氷見のYEGが両市のパイプ役となり、「まずは経済界からの交流」ということで姉妹YEGの提携を結んだ。

これは、単に経済交流だけでなく、山の都市大町と海の都市氷見という異都市間の交流を図ることで、人と人との繋がり、地域文化の交換・伝達を願っている。

③メソッド
各種イベントや青年部事業において相互参加をすることで、他都市の発展が出来たり、両市のPRが簡単にできる。また参加費をすることで、イベント等を盛り上げることができる。

現在はYEGの垣根を超えて個人、家族としての交流が行われている。

④姉妹青年部の現状

両都市で行われている各種イベントへの参加はもろもろ両青年部事業へも参加している。今年度は、氷見YEG開催の家族例会への参加を計画している。

⑤将来展望
今後は現在行われている交流から一歩前進するように、より活発な青年部活動を展開する。また、青年部同志の交流はもろもろ個人同士との交流も活発に行い、両地域の活性化に結び付けたい。

⑥新規提携の計画 なし

⑦事業・特産品、ミスコンの紹介等
●事業→エリアサミット・イン・おほまち、講習会・勉強会等、大町祭り、大町やまびこまつり、他に行政・会議事業への協力
●特産品→信州そば、りんご、松崎和紙、おざんざ、刺繍(白馬織・金襴織・北安大織)
●ミスコン→ミスコンは現在行っていないが、大町の観光等の案内役として大町レディーズ(かたくり、こまき、アルプス)3名が4月から3月まで1年間活動している。

上杉山公まつりでのイベント



〈米沢YEG〉

提携そして共生へ、YEG新たな出発』に基づき、地域連携事業の第一歩として正式に友好の誓約を取り交わしたものです。

調印式では米沢YEG青年部会長と高鍋YEG青年部会長が青年経営者同士の友好関係を築いていくことにより、互いに切磋琢磨し、両地域の経済的発展に寄与することを誓い合いました。

上杉山公は「なせばなる、なさねばならぬ何事も、なれば人のなまぬかりなり」と申されたそうですが、行動こそ時代を先駆けるべき青年の責務と信じて、米沢・高鍋両地域の礎となることを期しております。

米沢YEG(山形県)と高鍋YEG(宮崎県)では友好姉妹青年部提携を結ぶ。去る12月3日高鍋町において調印式を執り行ないました。

高鍋町と米沢市は上杉山公の養子縁組を結んだことから縁を結ぶ。二百数十年の月日を経た現在でも、両青年部はこの歴史的関係を伝承し、交流を深めてまいりましたが、今年度スローガン「直接交流・直接実現



一年を振り返って

ありがとうYEG仲間

平成9年度商青連会長 大村晴利



平成9年度もまもなく終わろうとしております。今年一年間全国のYEGに大変お世話になりましたこと、この紙面をお借りして心より謝礼を申し上げます。有難うございました。

組織改革また一歩前進

前年の秋に本社を引き継ぎ、組織改革の3年目にあたり副会長の役割の強化とプロダクト代表理事（YEG）の執行部としての立場を確立させました。正副会長、プロダクト代表理事・委員、会議を前倒しに設け、各プロダクト専任（専任協議会）の推進であるプロダクト代表理事にも商青連の動き、各委員の事業ならびにその進

明るく楽しくフレンドリーな商青連

また、役員会においては、副会長委員長の司会のもと「明るく楽しくフレンドリー」をモットーに、わざわざ全国から貴重な時間を割いてお会いに来られた役員が早く打ち解け合い、自由な意見交換ができたような雰囲気を作り出したい。ユニーアが掲げる理念の中、専任理事の絶大な推進力のお陰で90%以上の出席率があり、意思の疎通がスムーズに行えたと

15年記念誌の発行

商青連が設立されて15年目に「明日への創造」を10年目に「開けYEG」という記念誌が15周年を機に発行されてい

世界への扉を開く

また本年度は初めて、アジア商工会議所連合会（ACC）の要請で韓国、香港等の新設地商青連に派遣していただき、世界との交流と連携がますます盛んになると思っております。

20周年に向けて

この一年商青連会長として、全力投球で私の思いのすべてをこめて伝えてまいりました。素晴らしいYEGの未来に向けて、「新しい出発」を本年度から、大きく、強く、着実に進めていきたいと思います。

同業種の小委員会の設立

本年度の連盟の切っ掛けは、同業種でありました。商青連が推進されてきた地域のYEG活動が中央の中心部になって浸透していき、20年であったと思われ、5つの小委員会の中から新しい物産システムや商品の企画などが進められようとしてい

りお役にたてられないようなことも委員会は、少しでも良いものを作ろうと真摯に考えているのです。どうかこの年にまた発行の「開けYEG」をお楽しみしてお読み頂きたいと思っております。そして、各委員会も15年の節目としての事業展開の

中、仕事量も例年より倍増に多くなっているにも関わらず素晴らしい運営が実現し、事業報告書等を行うなど、まさに節目の年の委員会としての姿勢を賞賛して頂きたい。それぞれの委員長には深く謝礼を申し上げます。

はじめ、中長期的視野に立っての読み応えのある記事が多く各委員会にとってバイブルとしてお読みいただけるものがあり、これに仕上がっております。これからもYEG商青連に有意義なお読み願ひから、感謝申し上げます。私も本誌に参ります。

後、全国大会を両会場の場として開催を高めたいと考えているの思いからYEGヤングリーダー研修を催していただきました。初級アンブレレーターとして立ち上がり、そして更に後、全国大会を両会場の場として開催を高めたいと考えているの思いからYEGヤングリーダー研修を催していただきました。

この一年商青連会長として、全力投球で私の思いのすべてをこめて伝えてまいりました。素晴らしいYEGの未来に向けて、「新しい出発」を本年度から、大きく、強く、着実に進めていきたいと思います。

今年度は、10年間の大きな時代の流れの中で、歴史の大きな転機に立ち会えるこの瞬間と、未来に對

どは今年一番の収穫であり、地方から推進された商青連が推進されてきた地域のYEG活動が中央の中心部になって浸透していき、20年であったと思われ、5つの小委員会の中から新しい物産システムや商品の企画などが進められようとしてい

また、本年度は初めて、アジア商工会議所連合会（ACC）の要請で韓国、香港等の新設地商青連に派遣していただき、世界との交流と連携がますます盛んになると思っております。

この一年商青連会長として、全力投球で私の思いのすべてをこめて伝えてまいりました。素晴らしいYEGの未来に向けて、「新しい出発」を本年度から、大きく、強く、着実に進めていきたいと思います。

今年度は、10年間の大きな時代の流れの中で、歴史の大きな転機に立ち会えるこの瞬間と、未来に對

今年度は、10年間の大きな時代の流れの中で、歴史の大きな転機に立ち会えるこの瞬間と、未来に對

連携 共生へ 発信を続けるYEG

去る5月25日、日経ベンチャー主催の特別セミナー「社会を活性化させる「二世経営者」が、多数の聴衆を集めて開催された。

基調講演に、例年通り経営者 社長の出田一氏が「二世経営」に求められる企業家精神、また作家の直井冬二氏が特別講演として、「歴史から学ぶベンチャー経営」「二世経営」というテーマで、それぞれ講演をされた後、二世経営者によるパネルディスカッション、「若手経営者に求められるベンチャーマインド」が開催された。

これに、我、商青連関東ブロック代表理事の六本木信幸氏が、前二日電報代表取締役、北田喜光氏、日本青年会議所、経営開発プログラム委員会委員、岡合政氏、とともにパネラーとして参加した。

日経ベンチャー編集長、宮島吉郎氏のコーディネートのもと、各々が事業経験の経験や理想的な事業継承に不可欠な二世経営者としての役割を發表した。

各人の所属する団体や企業をバックグラウンドに、その経験や体験を踏まえ、青年らしい夢を語ったことが印象的なパネルディスカッションであった。特に六本木信幸は、いつものアナウンサーのごとく滑らかな口調で、ユーモアを添え、YEGの素晴らしさを十二分にPRした。決して身振りでなく、内容、話術とも磨

を磨いていたことを感懐にお知らせしたい。後、「行動力のあるYEGらしさを自分の体験を語り、自分の言葉で語ったつもりです。YEGに対する期待感も会場からの感じとすることができました。」と語る。六本木君の感想に同感である。

また6月10日には、市民党本部に於て、市民党工商部会連盟の国会議員と商青連役員との懇談会が取り行なわれ、税制や労働問題等、多岐に渡って活発な意見交換がなされた。随分と、我々の主張が国政の場で生かされることを期待したいと思う。

連携 共生へ 発信を続けるYEG

去る5月25日、日経ベンチャー主催の特別セミナー「社会を活性化させる「二世経営者」が、多数の聴衆を集めて開催された。

基調講演に、例年通り経営者 社長の出田一氏が「二世経営」に求められる企業家精神、また作家の直井冬二氏が特別講演として、「歴史から学ぶベンチャー経営」「二世経営」というテーマで、それぞれ講演をされた後、二世経営者によるパネルディスカッション、「若手経営者に求められるベンチャーマインド」が開催された。

これに、我、商青連関東ブロック代表理事の六本木

アジア商工会議所連合会 理事会開催

(CACCI)

副会長 岡井 謙 志
専任理事 木 川 雄一郎
平成9年11月6日・8日
に韓国済州島で開催された
アジア商工会議所連合会
（Confederation of asia-
Pacific Chambers of
Commerce and Industry
-CACCI）
東洋商工会に同会議の議
長である大西文夫大東商工
会議連合会（日通商連東東
商）の理事で大村会長、足
立副会長、木川専任理事ら
で参加しました。加盟国は
東・東南アジア諸国にオー
ストラリア、ニュージーラ
ンドを加えた21ヶ国です。
開会された後には2月にシ
ンガポールで開催された同
議合会の立派委員会の葬上
で、国の活性化には青年経
済人の活躍が重要であり、
日本にはその活動を含め全
議所活動の促進普及の目的
を包含する商工会議所青年
部が設置されており、活発
に活動している旨の説明が
出され、各国とも従来その
内情を聞きたいとの要望が
出たためであり、東上

大村会長は、まず日本での
青年部設置率が約6%と
高く、日本の商工会議所で
の組織化が進んでいること
を説明。次に進捗率対策
地域活性化のためのイベン
トの企画や実施、地域振興
ビジョンの策定、さらには
商工会議所連合会に参加す
ることにより関心と理解を深
めるとい
Cとの目
的の違い
を説明し
た。また
ることに
ることを
を説明し
た。

また、この目的の違いを説明し、今後とも商



（左から）大村会長、岡井副会長、木川専任理事ら。右から、足立副会長、大西議長、大東議長ら。

若手官僚との交流会開催

平成9年12月2日、官庁
の私邸を巡り、連携を図る
若手官僚のメンバー「清志
会」との交流会を開催しま
した。本会は商工会連盟の
を軸とした理事有志が「清志
会」を結成し、この目的に地
域交流センター（田中東南
市長）とお茶屋の創設した
ので今回は第3回目となり

まず、平成9年度の出産率
から自治体と官庁の担当人
員の方々に出席頂き、一巡
講演の後、赤坂で約1時間
分の取り組み内容と自己紹
介と共に話し合いがなされ
ました。また、清志連盟も自
身の地域に関する連携事業の
説明をし、理解を求めまし
た。国の国土開発計画も連
輪の節から具体的な方
針に降り、バリエーション
が豊富として地域の主体性
を重視して連携を図ろうと
しています。各青年部の活
躍を期待する発言がありま
した。次年度も清志連盟
事に本交流会のお知らせを
致しますので、日時をお願
いいたします（参加下さい）。

平成10年度各委員会の事業計画

委員会名	検討事項
総務委員会	①委員会総会、役員会の開催 ②日誌幹部との懇談会 ③規約の見直し ④プロック大会開催への協力 ⑤商青年部活動の情報提供と（会員拡大 ⑥その他（他）の委員へに働きかけの検討）
企画委員会	①第18回全国大会（青森）への開催、助言 ②第16回全国会長研修会（今治）の企画、運営、助言 ③全国大会、全国会長研修会、プロック大会立候補の受 理と検討
研修委員会	①YEGヤングリーダー研修会の企画、開催 ②短期生業の企画、開催
広報委員会	①雑誌「共生」（第25、26号）の発行 ②「石組」（会議録ニュース）への青年部活動の掲載 ③商青年部ホームページの作成 ④ホームページコントロールの開催
特別委員会	①YEG連携事業の推進 ②地域振興普及及びプロック別役員名簿の活用 ③小委員会による同業種交流の研究と活用 ④「ビジネス交流」の協力の企画、検討
プロック代表 理事会	①プロック大会開催 ②「プロック別役員名簿」の作成 ③各地青年部、都道府県連合会、プロックの活動支援 ④差別、プロック別連合会の開催支援 ⑤未加入青年部の加入促進 ⑥青年部活動の設備促進 ⑦プロック内（商青年部活動）の情報提供

「まってるはんで、青森さ、こいへ!!!」

第18回全国大会青森大会 実行委員長 後藤 薫

私たちが青森商工会議所青年部は
「でこどこ、どまどとする、ほ
んとすも、感動シナイ青森」を相
談スローガンに掲げ、大会開催へ
の「思い」と「ビジョン」をコン
セプトに平成10年11月全国大会、
青森大会を開催します。

「思い」では、「全国の仲間、感
動の気持ちを伝えたい」、「地域
活性化の機になる決意を伝えたい」、
そして、「魅力が溢れる青森を
つくりたい」とアピールしました。

青森市は、その自然の豊かさや
食文化のにも、そして魅力が
溢れる文化などでも全国に誇を
れるものがあふっています。特に
5000年以上の昔の縄文遺跡、
「洞丸古墳群」が創始されてからは
日本中に縄文ブームを起こしてい
ます。それだけでなく同様に、
青森に住んでいる人々のすばらし
さ、暖かたるエネルギー、私たち
を私たちが自身は体現して全国に
「伝えたい」と思っています。

（「ビジョン」では、「地域を地
域、地域内外の結び手」、「市民と
市民、市民と行政との結び手」、
「地域政策と実行の結び手」、とし
て「公衆衛生の推進と健康、衛生業
と地域振興の結び手」となること
を宣言しました。

ともすれば「思いつくこと」を
なすのが若手と見られる青森の
人々。これまで地域内外と手をつ
結び、そうすることによって他で
難するよりもはるかに大きな可能
性が得られることを実感しました。
全国大会では、青森と全国とを
繋げる青森だけでなく、日本の青森
という位置付けで、「結びたい」と
強く思うのです。

どんなに素晴らしい計画でも、
それが具体化され実行されるけれ
ば素晴らしいです。私たちが自
ら開催したいことを行政に依存す
るのではなく、私たち自身で実行す
るよう努めてきました。さらに、
全国の仲間と協力しあう仲間が
あてたいと思っています。幸くの
可能性とともに存在する連盟はあ
りませぬ。それに際することなく
向かっていく、そして、「かなたに
い」。そのためステップとして
全国大会を数ヶ月にたいと思っ
ています。

伝えたい、結びたい、かなた
い。それぞれの思いがこけあ
り。そのまち、親友の存在（愛）、
青森。

このコンセプトの1つのもと、
「日本の感動を語りあう、縄文
の森YEG」をテーマに、縄文
の森YEGに、平成10年11月5日
日、お茶屋の創りにみられる津軽人
のまつりイベント、縄文文化の
流れをも受け継いで「結びたい」
東北青森のすばらしさを、「青
森の地」、「全国の仲間」に届
せたい。この思いをこめ、



第18回全国大会青森大会 実行委員長 後藤 薫